

第53回 経営協議会 議事要旨

日 時 平成23年1月27日(木) 13:30~15:05
場 所 農学部共通棟1階 101号教室

- 議題1. 国立大学法人鹿児島大学職員給与規則の一部改正(宿日直手当改正)について(資料1)
議題2. 国立大学法人鹿児島大学職員給与規則及び国立大学法人鹿児島大学役員報酬規則の一部改正(俸給改正等)について(資料2)
議題3. 労使協定書の締結について(資料3)
議題4. 平成22年度間接経費での電子ジャーナル・バックファイルの整備について(資料4)
議題5. 平成23年度予算編成について(資料5)
議題6. 北米教育研究センターの法人登記について(資料6)
報告事項1. 平成23年度概算要求内示について(資料7)
報告事項2. 目的積立金に係る大臣承認の対象の変更について(資料8)
報告事項3. 医学部の収容定員の増加について(資料9)
報告事項4. 平成22年度収支実績(12月末現在)について(資料10)
報告事項5. 記者発表事項等について(資料11)

その他

- ① 本学教育研究評議会での審議事項等について(資料12)

[出席委員] 10名

吉田学長

(理事) 河原、島、前田、阿部、盛本
(学外有識者) 石窪、中村、永田、萬田

[欠席委員] 4名

(学内委員) 高松

(学外有識者) 岡積、辰村、林

[オブザーバー]

(理事) 大野

(監事) 坂東

(副学長) 馬場、安部、友清

(学長補佐) 鈴木、小栗、田島、山本、飯干、新森、門、靱井、藤重、森

[事務局]

(部長) 後藤、南須原、野崎、萩元、山本

(課長) 鶴飼、川西、執行、上國料、松田、永田、佐藤、神之門、岩下、上村、折田、松野下、瓜生

初めに学長から、昨年の政策コンテスト等への若者の参加などにより、今年度予算においては運営費交付金は前年度並み、授業料免除枠及び科研費等補助金に関しては若干の増が政府案として決定したこと、国立大学に対する国民の期待が大きいことから、各々の国立大学の果たすべき役割を明確にし、その特色を強化して国立大学の優れた取り組みを国民に理解できるように情報発信を充実すべきであること、本学においては、堅持すべき基本理念と果たすべき役割を平成 19 年に大学憲章としてまとめ、第Ⅱ期中期目標においては、この大学憲章を踏まえ策定したこと、また、平成 17 年度総人件費予算に対する 5%減（平成 18 年度から 22 年度まで各年 1%減）を勘案し、平成 24 年度からの新たな定数配置案を平成 22 年度中に作成予定であることから、平成 23 年度の基本的な予算案の策定及び平成 23 年度の年次計画策定と併せて本年 2 月から 3 月にかけて検討すること、この他、ハラスメント事案に関する対応を本年度中に終了させたいこと、教職員全員のハラスメントに関する意識向上を図り、自分は絶対にハラスメントを行わないという再決意を持っていただくよう、全学を挙げて周知徹底に取り組むこと、大学憲章と平成 22 年 11 月に学生自らが策定した学生憲章のプレートを各部局長室、管理棟玄関前等に整備し、教職員及び学生に周知したい旨の発言があった。

議題 1. 国立大学法人鹿児島大学職員給与規則の一部改正（宿日直手当改正）について（資料 1）

学長から、医師の処遇改善を図るために、宿日直勤務中に診療に従事した場合、別途勤務実績に応じて超過勤務手当を支給することから、現行の管理当直相当として支給されている医師の宿日直手当の見直しを行う鹿児島大学職員給与規則の一部改正について諮られ、河原理事から資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

議題 2. 国立大学法人鹿児島大学職員給与規則及び国立大学法人鹿児島大学役員報酬規則の一部改正（俸給改正等）について（資料 2）

学長から、一般職の職員の給与に関する法律の一部改正に伴う本学職員給与規則及び役員報酬規則の一部改正について諮られ、河原理事から職員組合との交渉を経ていることを含め、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり平成 23 年 3 月 1 日施行（役員報酬規則の一部改正に関しては平成 22 年 12 月 1 日から適用）が了承された。

議題 3. 労使協定書の締結について（資料 3）

学長から、医師の勤務時間の管理と時間外手当の取り扱いについて、実績に応じた超過勤務手当を支給するために、現在の特別条項付き労使協定に「人命を保護するために必要な時間外労働」を新たに定めること及び給与の口座振込について、ゆうちょ銀行口座へ直接振り込む事が可能（H23.2.1 から）になったことに伴う労使協定書の締結について諮られ、河原理事から資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

議題 4. 平成 22 年度間接経費での電子ジャーナル・バックファイルの整備について（資料 4）

学長から、平成 22 年度間接経費（全学分）の留保での電子ジャーナル・バックファイルの整備について諮られ、盛本理事から資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

議題 5. 平成 23 年度予算編成について（資料 5）

学長から、平成 23 年度予算編成について諮られ、盛本理事から、まず平成 23 年度概算要求内示について承知していただきたいことから、報告事項 3 の平成 23 年度概算要求内示に関し、文部科学省

から伝達された政府案について、資料に基づき報告があった。

引き続き、学長から、平成 23 年度学内予算編成に関し、平成 23 年度予算編成基本方針（案）及び予算枠（案）等について諮られ、盛本理事から平成 23 年度予算編成基本方針（案）、収入見合経費の考え方（案）、今後のスケジュール等について資料に基づき説明の後、引き続き財務課長から平成 23 年度運営費交付金対象収入・支出（案）、学内当初予算枠（案）等について資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

また、学長から本日は承された予算枠を各部局に提示し、各部局等から中期目標・中期計画・年次計画を踏まえた予算要求（企画立案）の提出を受け、2月末にヒアリングを行い、3月の経営協議会を経て、本年度内に平成23年度学内予算を決定したい旨の発言があった

議題 6. 北米教育研究センターの法人登記について（資料 6）

学長から、鹿児島大学の海外拠点として教育、研究及び社会貢献に係る国際活動の推進を目的に、アメリカ合衆国カリフォルニア州に設置した北米教育研究センターに関し、カリフォルニア州の法律に基づく同センターの法人登記について諮られ、前田理事から北米教育研究センターの活動内容を含め資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

なお、遠隔講義において「国際イノベーション概論」の受講者が少ない旨の意見があり、前田理事から、2010年度からの開始でPR不足だったことに起因するもので、今後発展させていきたい旨の発言があった。

報告事項 1. 平成 23 年度概算要求内示について（資料 7）

議題 5 の「平成 22 年度予算編成等について」で報告済。

委員から、昨年12月に出水市のツルで発生した鳥インフルエンザに関し、鹿児島大学が実施した簡易検査で1羽が陽性だったことから、同大は検体をウイルスの遺伝子検査ができる検査機器のある鳥取大に送ったと報道されたが、鹿児島大学でも同様の遺伝子検査ができる体制を整備していただきたい旨の要望があり、学長から、平成23年度概算要求で越境性動物疾病制御研究センター（定員1名）の設置が認められた旨の説明があった。

なお、口蹄疫や鳥インフルエンザの発生に鑑み、平成 23 年度概算要求で認められた同センターに関し、1名で運営することは難しいと思われるので、学内措置により人員及び施設整備を充実させていただきたい旨の意見があり、学長から、平成 24 年度に設置予定の共同獣医学部（山口大学と共同）と一体となった充実を図っていきたい旨の発言があった。

報告事項 2. 目的積立金に係る大臣承認の対象の変更について（資料 8）

盛本理事から、第二期中期目標期間における決算剰余金の繰越し（目的積立金の大臣承認の範囲及び目的積立金の執行上の留意点）について文部科学省より通知があったこと、今回の取扱い変更については、1月28日の「臨時国立大学法人の財務等に関する説明会」及び2月9日の「国大協九州地区支部会議」において更なる説明がある予定である旨、資料に基づき報告があった。

また、第2号変更予算で予算措置した水産学部の落雷により破損したレーダーシミュレータ装置等に関し、保険金が下りた旨併せて報告があった。

報告事項 3. 医学部の収容定員の増加について（資料 9）

学長から、平成 23 年 4 月から平成 31 年 4 月までの医学部収容定員の 2 名増加について、文部科学省から可とすることの通知があった旨資料に基づき報告があった。

報告事項 4. 平成 22 年度収支実績（12 月末現在）について（資料 10）

財務課長から、平成 22 年度収支実績（12 月末現在）について、資料に基づき説明があった。

報告事項 5. 記者発表事項等について（資料 11）

学長から、本学の最近の主な記者発表事項等について報告があった。

その他

① 本学教育研究評議会での審議事項等について（資料 12）

学長から、本学での動向等を把握していただくために、教育研究評議会での審議事項や研修会、セミナー等の実施要項等を参考までに添付している旨の報告があった。

次回の経営協議会は、今年度予算の補正、目的積立金に関し、2 月中に臨時に開催必要となる場合が考えられることから、日程調整させていただきたい旨の発言があった。